

平成 21 年 7 月 13 日

酪農場におけるサルモネラ症予防について

乳牛の体調管理が最も困難な暑い夏を迎えています。

一昨年以來、7 月～8 月にかけて管内の酪農場でサルモネラ症が散発しています。各酪農場におかれては、下記の対策を徹底し、本病とともに他の病気も予防するようお願いいたします。

記

1 乳牛のサルモネラ症

本病は高泌乳牛や分娩直後の免疫機能が低下している牛に、また、季節的には夏期に発病し易いことが知られています。発病した牛は発熱と下痢を示し、下痢便に粘液や血液が混じることがあります。まれに流産を伴います。

原因菌は病牛の腸内で増殖して糞中に排泄されます。以前に感染した牛の導入に加えて、原因菌を含んだ糞を付着させた人の履き物、ネズミ、カラス等の野生動物を介して他農場に伝播します。腸内細菌叢が正常な牛は本病に感染し難いので、良質の粗飼料の給与や生菌剤の飼料添加が予防に有用であり、牛の体調を向上させる暑さ対策も有効な予防法です。

2 予防対策

1)各農場の畜舎前に踏み込み消毒槽を設置し、牛舎の出入り時に履き物を消毒する。

消毒薬には細菌とウイルスの両者に有効な製品を選ぶ（ロンテクト 1,000 倍液、ピルコン 500 倍液など）。

消毒薬は 3 日間間隔で交換する。ただし、糞等で汚れた際はその度に交換する。

2)来訪者用に、牛舎専用の履き物（長靴）を用意する。

3)餌槽、牛舎内および牛舎周囲の定期的な清掃と消毒

1 週間程度の間隔で、餌槽には塩素剤、牛舎内外には消石灰や細菌とウイルスの両者に有効な消毒剤を選ぶ。

4)暑熱対策（牛舎への直射日光の遮断、新鮮で十分量の給水、早朝や夜間の給餌、濃厚飼料を給与する前に十分量の乾草等粗飼料を給与する）の励行。

3 万一、発生した際の応急措置

万一の発生農場では、下痢便中に多量の原因菌が含まれることから、直ちに隔離し（隔離が困難な際は隣接する牛との間にコンパネ等の隔壁、牛の後部通路等に踏込消毒槽を設置する）、牛房を消石灰で消毒するなどの応急措置を施し、獣医師の診療を求めることにより、他牛への感染を最小限に留めることができます。